

成田市は空港にすぎる利権屋か？！

農地取り上げを許さず、生きる権利を闘いとる！

住民の命と暮らしを 空港にさし出す 小泉市長の暴挙

12月15日、成田空港圏自治体連絡協議会（会長・小泉一成成田市長）は成田空港会社に、深夜・早朝時間帯の制限緩和を「提案」しました。深夜23時から早朝6時での飛行禁止時間の緩和と22時台の増便を求めています。

暫定滑走路南端の**天神峰・東峰地区**、空港北部の**豊住、中郷、久住地区**や**旧下総町**の住民は、今でさえ耐え難い大騒音と生活破壊におかれています。この傷みを市長はいったいどう考えているのか！

新たな農地収用までも提案！

さらなる北延伸と滑走路の平行移動

そればかりではありません。市長たちは暫定滑走路のさらなる北への延伸や、滑走路そのものを東側にずらす案さえもちかけました。これは、まったく新たな農地収用と共有地（開拓組合道路）の強奪なくしてできないことです！

自治体は、空港による生活破壊から住民の命と暮らしを守るべき立場にあります。43年間の永い闘いの中でも、市長の側から飛行時間の拡大を求めたり、ましてや農地収用をもちかけるなど、聞いたためしがない！これは自治体の腐敗・墮落です。

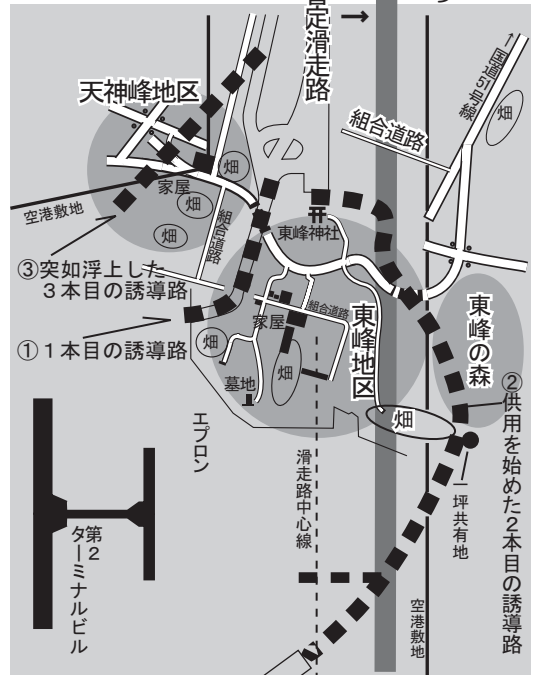
権利を主張し守ることの大切さ

市民のみなさん！ 国の財政が破たんして、八ッ場などのダム建設や空港建設などの大型公共事業の利権構造と無計画が明るみに出ました。いまだ完成できない成田空港はその象徴と言われます。

右の図を見て下さい。北延伸も誘導路も、まるで木に竹を接ぐように場当たりの工事の積み重ね。前原国交相の「羽田ハブ」発言は、住民不在の空港行政の結果です。連絡協議会の「提案」は、反省しないどころか、これまで以上に悪質です。

首切りと賃下げこの時代、生きる権利を闘いとることの大切さは、労働者も農民も同じです。市東さんの農地と、闘いの砦（現闘本部）を守って闘います。ご理解・ご支援下さい。（12月21日）

農地と共有地の新たな収用攻撃だ！ 暫定滑走路を東にずらす「提案」も



暫定滑走路は、未買収地をさけるために長さを縮め、北にずらして作られた。さらに、着陸の障害となる神社の社を避けるため、滑走路敷地を4メートルも土盛りした。このため滑走路とエプロン（②）を造って7月に供用したが、急勾配で使い物にならず、2本目（①）を造って7月に供用したが、滑走路の先端を横切る構造で危険。そこで場当たりの3本目（③）を造るといふ。あけくには、再度の北延伸や滑走路の平行移動を「提案」したという。これは自治体の腐敗・墮落といふべき。
左は、空港予定地の農家に向かって「交差点の中に住むようなもの。早く移転してくれ」と居直る小泉市長